

◎ 展示会・イベント情報

1. 第 52 回名古屋テーブルトップショー 開催

陶磁器業界の一大イベント、秋冬商戦に向けた新商品・新企画が多彩に紹介される「第 52 回名古屋テーブルトップショー」が 6 月 5 日(水)、6 日(木)の 2 日間開催されます。

開催場所は、前回のポートメッセなごやとウインクあいちでしたが、今回は名古屋千種区の「吹上ホール」と中村区の「ウインクあいち」に変更となります。

開催場所:		・吹上ホール 1F メイン会場	・ウインクあいち 愛知県産業労働センター6・7・8F 会場
開催日時:	6 月 5 日(水)	9:00~17:00	9:00~18:00
	6 月 6 日(木)	9:00~16:00	9:00~17:00
問合せ先:	事務局 〒468-0065 名古屋市天白区中砂町 496 番地 新日本印刷(株)内 TEL: 052-832-6851		

◎ 美術館情報

【各施設では、下記の特別展・企画展等のほか、常設展を開催しております。】

1. 横山美術館 (<https://www.yokoyama-art-museum.or.jp/event/index.html?id=nextplan>)

6月1日(土)～10月31日(木)

企画展：魅了する 煌めく薩摩

明治維新を契機にして、煌びやかな金彩を施した鹿児島の薩摩焼は、外貨獲得のための重要な輸出品として位置づけられます。海外で好評を博した薩摩焼は京都や東京、横浜など多くの産地でもつくられるようになり、京薩摩や横浜薩摩など各地で生まれた絢爛豪華なやきものは「SATSUMA」と呼ばれ盛んに輸出されました。本展では、明治・大正時代に鹿児島をはじめ長崎、京都、金沢、東京、横浜など各地で生み出され、海を渡って人々を魅了した煌めく薩摩焼の名品を紹介します。



2. 石川県九谷焼美術館【石川・加賀】 (<http://www.kutani-mus.jp/ja/news/>)

4月13日(土)～6月16日(日)

企画展：石川県九谷焼美術館収蔵品コレクション展 やきもののいろいろ

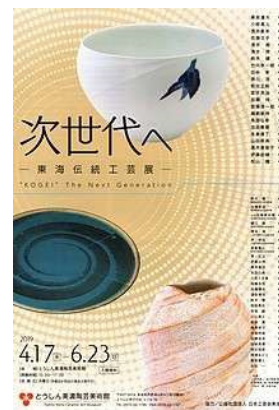
当館の常設展示室では、九谷焼を「青手」、「色絵・五彩手」、「赤絵・金欄手」の三様式に分けて展示。しかし、九谷焼には、この三つの様式には当てはまらないものが少なからずあり、収蔵品の中には九谷焼以外のやきものもあります。それらは、染付、青磁、鉄釉、釉(ゆう)裏(り)紅(こう)、磁質手(ぎょくしつで)、イチン技法、赤絵と色絵・五彩手が合わさったような九谷焼、絵が無く釉薬だけの九谷焼、中国のやきもの、古伊万里等です。本展では、これらの収蔵品の中から、これまでは展示する機会があまり無かったやきもの35件を選び、紹介します。

3. どうしん美濃陶芸美術館 (<https://www.shinkin.co.jp/tono/toshin/pdf/minotougei.pdf>)

4月17日(水)～6月23日(日)

企画展：次世代へ — 東海伝統工芸展 —

東海伝統工芸展に出品している作家の中から、次世代の作家に注目し紹介します。陶芸中心に漆・木工・染織など、それぞれの作家がどのような思いで伝統工芸をとらえ、作品づくりに取り組んでいるのか。伝統工芸の世界をご覧ください。



4. 瀬戸染付工芸館 (<http://www.seto-cul.jp/sometsuke/kikaku/index.html>)

3月27日(水)～7月1日(月)

企画展：花と鳥 — 瀬戸染付の自然 —

瀬戸染付の特徴のひとつである、写実的な絵付で生き生きと描かれた花や鳥を、写真とともに展示し、私たちの生活に身近な存在である、やきものと自然に関心を持っていただけることを目的に紹介します。

5. 岐阜県現代陶芸美術館 (http://www.cpm-gifu.jp/museum/02.exhibition/02_1.exhibition.html)

3月9日(土)～7月21日(日)

コレクション展：近現代の美濃陶芸「古典復興から展開」

当館では、近代に入った明治期以降の美濃陶芸の歩みを、コレクションに基づいて、2回にわたって紹介します。第1回は明治期における釉下彩などの革新に注目した展示を行いました。本展はその第2回として、昭和初期以降の古典復興に基づく多彩な展開を紹介します。

